メガスラブ
施工要領

※外壁ファサードへの施工については検討中
現場情報により今後改訂する事があります。

（株）アドヴァングループ

Ver.2024-06-04

ADVメガスラブ施工について（要点）

①下地の精度　　・1mm/2M 程度

【フロリム値↑、コット2mm/2M、セメダイン2mm/3M】

補足）コンクリート下地の精度は低い事が多く
一般的にボンド厚は10mm程度になるようです。
仕上げ代に余裕があれば予め合板12mmを床に貼る
方法もあります。

②下地は安定している事　亀裂がない事
ゴミを取り除く事

③接着剤の選び方

・コンクリート下地→**フレックスゴールド（ADV)**
クシ目　下地：10mmV字型　裏面：3mm
・合板、石膏ボード下地→**床：タイルエース、壁：同F**
クシ目　5～7mm（施工面に塗布）
→下地の精度が良い事が多くボンド厚は3～5mm程度

④施工のポイント

・接着剤の空気を抜くことが大切
→クシ目は短手方向とし、下地も同方向とする
・床面への最大サイズは1200角程度が現実的

⑤目地幅　内装2mm以上

・（検討中ですが、外装の場合5mm以上）

メガスラブ　～床面施工～

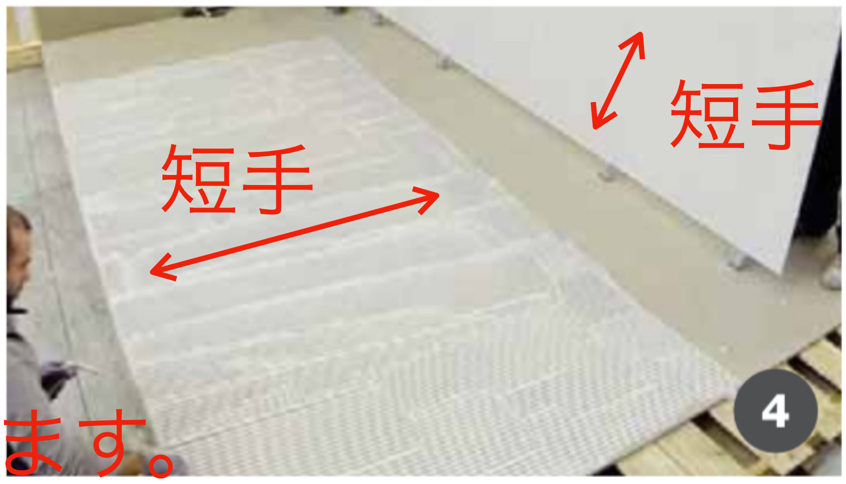
※下記はコンクリート下地、フレックスゴールドで施工した例です。

施工する床下地に亀裂がなく、均質で完全に硬化し、完全にきれいで平らであることを確認してください。
平面度からの最大偏差は、測定長さ 2 メートルあたり 1mm です。

まずは裏面に圧着モルタルを塗布します。
クシ目3mmのコテで塗布します(❶)。 推奨される接着剤は **アド・フレックスゴールド（C2TE S1）** であり、**一方向にのみ塗布**する必要があります (❷)。

下地、裏面とも短手方向！
空気抜ける事が重要！

同時に、
15mm U クシ目コテまたは
10mm V クシ目コテを使用して、
スラブ (❹) の裏面に塗布したのと**同じ方向に**、接着剤を床下地 (❸) 上に広げます。



※タイルエースで施工する場合は床面のみ塗布します。

メガスラブ　～床面施工～

※下記はコンクリート下地、フレックスゴールドで施工した例です。

適切な吸盤フレームを使用して、最小接合部が 3 mm を維持するように注意しながら、スラブを接着ベッド（❺❻） 上に配置します。

完全に固定するためにゴムごてでスラブをたたき❼、**空気が確実に排出されるようにします。** スラブの中心から始めて、端に向かって移動することをお勧めします。

メガスラブ　～床面施工～

※下記はコンクリート下地、フレックスゴールドで施工した例です。

スペーサー (❽) を使用して少なくとも 3 mm の目地幅を維持しながら、施工します。
“目地スペーサー“を使用すると便利です。

この作業には、
“メガスラブ･アジャスター“を使用すると安全に微調整出来ます(❾)。

スラブの各辺に
“アドクリップ工法“をを使用することをお勧めします (❿ ～ 11)。
施工精度を向上させ段差を解消します。
段差が無くなる事で、歩行時の“つまづき“や、“タイルの欠け“が予防できます。

メガスラブ　～壁面施工～

※下記はコンクリート下地、フレックスゴールドで施工した例です。

壁面への施工は、前述した床面への施工 (❶ ～ ❻) と同じ手順で進めてください。

必ず 15mm Uクシ目コテまたは 10mm Vクシ目コテを使用して接着剤を塗布し、**<u>一方向にのみ</u>**塗り広げてください (❷、❸)。

※タイルエースFで施工する場合は壁面のみ塗布します。

メガスラブ　～壁面施工～

※下記はコンクリート下地、フレックスゴールドで施工した例です。

スペーサー (❼、❽) を使用して少なくとも 3 mm の目地幅を維持しながら、**“メガスラブアジャスター“**を使用して微調整してください。

屋外に施工する場合は目地幅5mm程度あけてください。

各辺に**“クリップ工法“**をする事で施工精度が向上し段差目違いが解消されます。（❾、❿）

施工用具·副資材

KBR-185DAL01A

メガスラブアジャスタースタンダード

KBR-185ARLIVA

メガスラブ アジャスタープレミアム

KBR-142G

メガスラブ専用叩き板（ハンマー）

KBCP-180BA500-HD

薄物用クリップ　(厚3~12mm)

500個/袋　厚3-12mm

KBCP-180CU500

くさび

500個/袋

KBCP-231

床用プライヤー

KBCP-231NRIV

壁用プライヤー

KBR-02902

施工用目地ピッチ3mm

KBR-155200

目地ピッチ5mm

KBA-225111

フレックスボンドゴールド　グレータイプ(床用)

25kg/袋

KBA-108122

アドソフトA(床用)

8リットル/缶

KBA-RE217

内外装壁タイル用 タイルエースF (変成シリコーン樹脂)

KBA-RE505

内装床タイル用 タイルエース床用 (変成シリコーン樹脂)

仕様書（適用範囲）

<table>
<tr><th>部位</th><th>下地</th><th colspan="2">種類･留意点</th><th>使用接着剤</th></tr>
<tr><td rowspan="5">内装壁</td><td rowspan="4">ボード下地</td><td>ケイ酸カルシウム板</td><td>比重1.0 6.0mm厚以上</td><td rowspan="5">タイルエースF</td></tr>
<tr><td>石膏ボード</td><td>9.5mm厚以上</td></tr>
<tr><td>合板</td><td>1種以上 9.5mm厚以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">ボード目違いが無いようにしてください
1枚貼りの場合はスタット間隔300mm以下
2枚貼りの場合はスタット間隔450mm以下
※貼りしろは3〜5mm程度</td></tr>
<tr><td>モルタル･
コンクリート</td><td colspan="2">モルタルにて下地調整してください（又は合板を貼り下地とする）
下地精度　2mm/3M</td></tr>
<tr><td rowspan="2">内装床</td><td>ボード下地</td><td>合板</td><td>根太ピッチ303mm以下
下床板は1種合板18mm以上2枚貼り</td><td>タイルエース床用</td></tr>
<tr><td>モルタル･
コンクリート</td><td colspan="2">モルタル又はセルフレベリングにて下地調整してください
下地精度　2mm/3M
※実際には不陸調整が難しい場合は
　貼りしろが10mmとなる事もあります</td><td>フレックスゴールド
（ADV セメント系）</td></tr>
</table>

施工要領

①本書に記載されていない細部工程は監督者と打ち合わせ決定する。
使用材料の納期時期や保管場所、下地の乾燥状況、および他の関連工事についても監理者と協議打ち合わせを行うこと。

②材料の保管と取扱い
材料の保管の方法については、パレット等にて保管する。

③気象条件
a） 屋外での施工は気象状況の悪い場合（強風、雨、雪）は施工しない。※外部施工方法は検討中
b） 気温が著しく低い場合は施工しない。
c）降雨、降雪、が予想される場合は施工を中止して適切な養生を行う。

④材料
a） 磁器質大判タイル

⑤接着剤
a) セメダインタイルエースF （主に壁用）
b). セメダイン タイルエース床用

⑥目地剤
目地幅を考慮して適した目地剤を選定してください。

⑦下地の確認
a)下地は平坦で、亀裂・浮がないことを確認する。
又、平滑度は、2m定規あたり＝1mm以下を目標とする。（別途協議）
b）モルタル下地面の乾燥、硬化はタイル張り付けまで28日程度置くことが望ましい。（季節、現場、の環境条件に依る）
c）下地表面にほこり、ペイント、レイタンス、白華などの汚れが付着している場合には、
ケレン掛け、サンダー掛け等を行って取り除く。
また、モルタル下地面が木ゴテ仕上げの場合、砂粒子は表面に出ていることがあり、タイルの割れ、不陸を生することがあるため、金ゴテ等による頭ハネ、ケレン掛けを行う。（別途協議）
※ 点検の結果以上を認めた場合は速やかに監督員に報告し指示を受ける。

⑨タイル張り付け
a）（タイルエースの場合）接着剤を容器から取り出し、30分以内にタイルが張り付けられる面積に金ゴテで押し付けるように塗広げる。
塗り付け後、直ちに目ゴテを用いて目を立てる。櫛目は塗厚（5mm〜7mm程度）がとれるようしっかりと立てかつ、かすれないようにする。
a’) (フレックスゴールドの場合）25kg/袋あたり約8リットルの水で練ります。水の量が少ない場合、モルタルがしっかり広がらずに空隙が残る原因になります。
下地の精度次第で適したコテで下地とタイル裏面にモルタルを塗り付けます。
その時に両方ともクシ目をタイル短手方向に合わせます。（空気が抜けやすくなります）
b） 接着剤塗り付け後、目地幅、目地通りに注意しながらタイルを張り始めます。
その際、中央部に浮が発生しないよう注意し振動工具でしっかり空気を抜いて密着させます。
“メガスラブアジャスター“を使用すれば安全に位置を微調整出来ます。
“クリップ工法“で段差が無いように平滑に仕上げます。
目地部や伸縮目地等にはみ出した余分な接着剤およびタイル表面の汚れは早い時間内に除去、清掃します。

⑩目地詰め
a） 目地幅は、2mm〜3mm又は5mm（外部）とする。
b） 目地詰めは、タイルが動かない事を確認してから行う。
c） 目地材は前記仕様とする。
d）目地材は、1回目の目地詰めに必要な量とし少なくとも30分以内に使用する。
又、材料に著しい変質を認めた場合使用しない。
e） 目地材については、目地モルタル材をゴムゴテですり込むようにして塗る。
f） 目地仕上がり表面は、ピンホール、かすれ、不陸がないように注意する。
　また目地内部に空隙が無いようにする。

11：清掃、養生、その他
a） クリーニングは、目地材の硬化後行う。（別途協議）
b） 気温5°C以下、35°C以上になるときは、接着剤の硬化などに影響があるので注意する。
c）施工中及び接着剤が十分硬化しないうちに、タイル張り面に衝撃を与えないように注する。
なお養生機関については3日程度が望ましいが用途によっては事前に打ち合わせるにする。
d） 工事完了後は施工場所の後片づけを行う。

施工フロー

スタート

↓

下地の確認　　不陸･クラック･汚れ等

↓

割付（墨出し）

↓

カット（現場合わせ部）　　できるだけ予め工場でカットする事

↓

接着剤塗布

↓

タイル貼付･調整

↓

汚れ除去

↓

目地詰め

↓

クリーニング